

映画史上の名作(その1)

映画が誕生してから80年を越える歳月が過ぎ去りました。この間、映画は独自の芸術形式を創造し、長い伝統を持った他の芸術分野の創造物と肩を並べうる数多くの名作を生み出し、第八芸術としての確固たる地歩と高い評価をかちえて今日にいたっております。一方、映画はその誕生の時から一貫して大衆の娯楽鑑賞物として親しまれ愛されて、われわれの生活の中に溶けこんできました。映画がいかにわれわれの精神形成に大きな影響を与えたかを考えるとき、名作の持つ力は不朽であり、年々歳々生まれ育つ若い世代の方々にとって映画とは何か、スクリーンから発散する映像芸術の魅力とは何かを味わっていただきたいと念願し、1978年より特集《映画史上の名作》を毎年春に上映することにいたしました。この特集は、新たに映画研究の道へ足を踏み入れようとする若い世代の方々にとって、いわば入門書のような役割を果たすものと思われませんが、本年5月に当フィルムセンターが開館10周年を迎えるのを記念する意味もこめて、今回は例年より上映作品を大幅に増やした特別番組といたしました。ひろく映画研究者、愛好家の方々の御鑑賞をお勧めいたします。

1980年4月 フィルムセンター

*日曜・祝日は休館。午後3時・6時15分の2回開映

(開館は12時30分で、先着順にて定員239名に達し次第締め切ります。)

一般200円・学生140円・小人100円

期 日	題 名	製作国・年	監 督	出 演 者
5月7日(水)	イントレランス(無声・155分)	米・1916年	D. W. グリフィス	リリアン・ギッシュ、メイ・マーシュ、コンスタンス・タルマッジ
8日(木)	生恋死恋(無声・80分)	瑞・1917年	ヴィクトル・シェストレム	ヴィクトル・シェストレム、エディト・エラストフ、ヨーン・エクマン
9日(金)	ガリガリ博士(無声・58分)	独・1919年	ロベルト・ヴィーネ	ヴェルナー・クラウス、コンラート・ファイト、リル・ダゴファー
	朝から夜中まで(無声・53分)	独・1920年	カール・H・マルティン	エルンスト・ドイッチュ、エルナ・モレナ、ローマ・パーン
10日(土)	アルプス嵐(無声・88分)	米・1919年	E. V. シュトロハイム	サム・ド・グラス、フランセラ・ヒリントン、E. V. シュトロハイム
12日(月)	吹雪の夜(無声・80分)	瑞・1919年	マウリツ・スティルレル	ヤルマール・セランデル、コンコルディア・セランデル、リカド・ワルド
13日(火)	乗合馬車(無声・80分)	米・1921年	ヘンリ・キング	リチャード・バーセルメス、グラディス・ヒューレット、アーネスト・タレンス
14日(水)	椿姫(無声・64分)	米・1921年	レイ・C・スモールウッド	ルドルフ・ヴァレンチノ、アラ・ナジモヴァ、レックス・チェリーマン
15日(木)	鉄道の白薔薇(無声・135分)	仏・1922年	アマレ・ガンス	セブラン・マルス、アイヴィ・クロース、ガブリエル・グラウホース
16日(金)	結婚哲学(無声・105分)	米・1924年	エルンスト・ルビッチ	アドルフ・マンジュー、マリー・ブレイヴオスト、モント・ブレー
17日(土)	アイアンホース(無声・130分)	米・1924年	ジョン・フォード	ジョージ・オブライエン、マジック・ベラミ、チャールズ・エドワード・ブル
19日(月)	サンライズ(無声・97分)	米・1927年	F. W. ムルナウ	ジョージ・オブライエン、ジャネット・ゲイナー、マーガレット・リヴィングストン
20日(火)	戦艦ボチョムキン(無声・74分)	ソ・1925年	S. エイゼンシュテイン	アレクサンドル・アントノフ、ウラディミール・ワルスキー
21日(水)	狂った一夏(サウンド版・58分)	日・1926年	衣笠貞之助	井上正夫、中川芳江、飯島綾子、間操、高勢実
22日(木)	聖ペテルブルグの最後(無声・72分)	ソ・1927年	フセヴォロド・プドフキン	アンドレイ・チスチャコフ、ヴェラ・バラノフスカヤ、イワン・チュヴリヨフ
23日(金)	幕間(無声・15分)	仏・1924年	ルネ・クレール	マルセル・アシャール、ロルフ・ド・マレ、エリク・サティ
	エマク・バキア(無声・14分)		マン・レイ	
	貝殻と僧侶(無声・15分)	仏・1927年	ジェルメーヌ・デュラック	アレクス・アラン、バタユ、ジェニカ・アタナジウ
	アッシャー家の末裔(無声・60分)	仏・1928年	ジャン・エプスタン	ジャン・トビュクール、マルグリット・ガンス、シャルル・ミュラ
24日(土)	裁かる、ジャンヌ(無声・106分)	仏・1928年	カール・T・ドライヤー	ファルコネッティ、ウジェーヌ・シルヴァン、ミシェル・シモン
26日(月)	アンダルシアの犬(無声・15分)	仏・1928年	ルイス・ブニュエル	ピエール・マシエフ、シモーヌ・マレーユ、ルイス・ブニュエル
	黄金時代(無声・60分)	仏・1930年	ルイス・ブニュエル	ガストン・モド、リア・リス、マクス・エルンスト
27日(火)	バンドラの箱(無声・100分)	独・1929年	G. W. パバスト	ルイーズ・ブレンクス、フリッツ・コルトナー、フランツ・レデラー
28日(水)	大地(無声・60分)	ソ・1930年	A. ドヴジェンコ	ステパン・シュクラート、ユリア・ソーンツェワ、セミヨン・スヴァシェンコ
29日(木)	制服の処女(88分)	独・1931年	レオンティーネ・ザガン	ドロテア・ヴィーク、ヘルタ・ティーレ、エミリア・ウンダ
30日(金)	M(104分)	独・1931年	フリッツ・ラング	ペーター・ローレ、オット・ヴェルニッケ、グスタフ・グリュンドゲンス
31日(土)	会議は踊る(92分)	独・1931年	エリク・シャレル	リリアン・ハーヴィー、ヴィリ・フリッチュ、コンラート・ファイト
6月2日(月)	滝の白糸(無声・118分)	日・1933年	溝口健二	入江たか子、岡田時彦、滝鈴子、菅井一郎、浦辺象子
3日(火)	最後の億万長者(88分)	仏・1934年	ルネ・クレール	マクス・デアリ、ルネ・サン＝シール、レーモン・コルディ
4日(水)	隣の八重ちゃん(77分)	日・1934年	島津保次郎	大日方伝、逢初夢子、岡田嘉子、高杉早苗、磯野秋雄
5日(木)	地の果てを行く(103分)	仏・1935年	J. デヴィヴィエ	ジャン・ギャバン、アナベラ、ローベール・ル・ヴィガン
6日(金)	百万両の壺(90分)	日・1935年	山中貞雄	大河内伝次郎、喜代三、沢村国太郎、花井蘭子
7日(土)	マヅルカ(96分)	奥・1935年	ヴィリ・フォルスト	ポーラ・ネグリ、アルフレヒト・シェーンホルス、インゲボルク・テーク
9日(月)	女だけの都(102分)	仏・1935年	ジャック・フェデー	フランソワーズ・ロゼ、アンドレ・アレルム、ルイ・ジュベ
10日(火)	赤西蛸太(78分)	日・1936年	伊丹万作	片岡千恵蔵、杉山昌三九、毛利峯子、原健作、上山草人
11日(水)	——— 臨時休館 ———			

映画史上の名作(その2)

映画が誕生してから80年を越える歳月が過ぎ去りました。この間、映画は独自の芸術形式を創造し、長い伝統を持った他の芸術分野の創造物と肩を並べうる数多くの名作を生み出し、第八芸術としての確固たる地歩と高い評価をかちえて今日にいたっております。一方、映画はその誕生の時から一貫して大衆の娯楽鑑賞物として親しまれ愛されて、われわれの生活の中に溶けこんできました。映画がいかにわれわれの精神形成に大きな影響を与えたかを考えるとき、名作の持つ力は不朽であり、年々歳々生まれ育つ若い世代の方々にとって映画とは何か、スクリーンから発散する映像芸術の魅力とは何かを味わっていただきたいと念願し、1978年より特集《映画史上の名作》を毎年春に上映することにいたしました。この特集は、新たに映画研究の道へ足を踏み入れようとする若い世代の方々にとって、いわば入門書のような役割を果たすものと思われませんが、本年5月に当フィルムセンターが開館10周年を迎えるのを記念する意味もこめて、今回は例年より上映作品を大幅に増やした特別番組といたしました。ひろく映画研究者、愛好家の方々の御鑑賞をお勧めいたします。

1980年4月 フィルムセンター

*日曜・祝日は休館。午後3時・6時15分の2回開映（開館は12時30分で、先着順にて定員239名に達し次第締め切ります）。

★印の6月28日、7月12日・19日の土曜日は1時・5時開映

一般200円・学生140円・小人100円

期 日	題 名	製作国・年	監 督	出 演 者
6月12日(木)	有りがたうさん (75分)	日・1936年	清水宏	上原謙、桑野通子、河村黎吉、築地まゆみ、二葉かほる
13日(金)	ジュニイの家 (90分)	仏・1936年	マルセル・カルネ	フランソワーズ・ロゼー、アルベール・フレジャン、ジャン＝ルイ・ポロー
14日(土)	兄いもうと (60分)	日・1936年	木村荘十二	丸山定夫、竹久千恵子、小杉義男、英百合子、堀越節子
16日(月)	若い人 (81分)	日・1937年	豊田四郎	大日方伝、市川春代、夏川静江、英百合子、山口勇
17日(火)	綴方教室 (85分)	日・1938年	山本嘉次郎	高峰秀子、徳川夢声、清川虹子、滝沢修、赤木蘭子
18日(水)	母と子 (87分)	日・1938年	渋谷実	田中絹代、佐分利信、吉川満子、河村黎吉、徳大寺伸
19日(木)	ゲームの規則 (87分)	仏・1939年	ジャン・ルノワール	マルセル・ダリウ、ノラ・グレゴール、ジャン・ルノワール
20日(金)	土と兵隊 (120分)	日・1939年	田坂具隆	小杉勇、井染四郎、山本礼三郎、菊地良一、見明凡太郎
21日(土)	市民ケーン (116分)	米・1941年	オースン・ウェルズ	オースン・ウェルズ、ジョセフ・コットン、ルス・ウォーリック
23日(月)	戸田家の兄妹 (100分)	日・1941年	小津安二郎	佐分利信、高峰三枝子、桑野通子、藤野秀夫、葛城文子
24日(火)	無法松の一松 (79分)	日・1943年	稲垣浩	阪東妻三郎、園井恵子、月形龍之介、長門裕之、杉狂児
25日(水)	姿三四郎 (77分)	日・1943年	黒沢明	大河内伝次郎、藤田進、轟夕起子、月形龍之介、志村喬
26日(木)	無防備都市 (103分)	伊・1945年	ロベルト・ロッセリーニ	アンナ・マニャーニ、アルド・ファブリーツイ、マリア・ミーキ
27日(金)	靴みがき (90分)	伊・1946年	V・デ・シーカ	フランコ・インテルレンギ、リナルド・スモルドーニ、エミリオ・チゴリー
28日(土)	★揺れる大地 (159分)	伊・1948年	ルキノ・ヴィスコンティ	シチリア島のアチ・トレッツァの漁師たち
30日(月)	王将 (97分)	日・1948年	伊藤大輔	阪東妻三郎、水戸光子、三条美紀、小杉勇、滝沢修
7月1日(火)	落ちた偶像 (93分)	英・1948年	キャロル・リード	ラル・フリチャードソン、ミシェル・モルガン、ジャック・ホーキンズ
2日(水)	また逢う日まで (108分)	日・1950年	今井正	岡田英二、久我美子、杉村春子、滝沢修、風見章子
3日(木)	めし (97分)	日・1951年	成瀬巳喜男	上原謙、原節子、島崎雪子、杉葉子、杉村春子
4日(金)	居酒屋 (116分)	仏・1953年	ルネ・クレマン	マリア・シェル、フランソワ・ベリエ、アルマン・メストラル
5日(土)	ホブスの選遊び (107分)	英・1954年	デイヴィッド・リー	チャールズ・ロートン、ジョン・ミルズ、フランク・デ・シンジ
7日(月)	血槍富士 (97分)	日・1955年	内田吐夢	片岡千恵蔵、月形龍之介、喜多川千鶴、田代百合子、植木千恵
8日(火)	大地のうた (123分)	印・1955年	サチャジット・ライ	カルナ・サルージ、カヌ・サルージ、サビレ・サルージ
9日(水)	たけくらべ (92分)	日・1955年	五所平之助	美空ひばり、北原隆、岸恵子、山田五十鈴、市川染五郎
10日(木)	ビルマの堅琴 (115分)	日・1956年	市川崑	安井昌二、三国連太郎、伊藤雄之助、北林谷栄、三橋達也
11日(金)	野いちご (91分)	瑞・1957年	イングマル・ベルイマン	ヴィクトル・シェストレム、イングリット・チュエリン、ビビ・アンデルソン
12日(土)	★甘い生活 (170分)	伊・1960年	フェデリコ・フェリーニ	マルチェロ・マストロヤニ、アニタ・エクバーク、アヌーク・エメ
14日(月)	檀山節考 (97分)	日・1958年	木下恵介	田中絹代、高橋貞二、望月優子、宮口精二、伊藤雄之助
15日(火)	二十四時間の情事 (90分)	日・1959年	アラン・レネ	岡田英二、エマニュエリヴァ
16日(水)	荷車の歌 (140分)	日・1959年	山本薩夫	望月優子、三国連太郎、左幸子、岸輝子、浦辺粂子
17日(木)	しとやかな獣 (95分)	日・1962年	川島雄三	若尾文子、伊藤雄之助、山岡久乃、船越英二、高松英郎
18日(金)	パサジェルカ (61分)	ポ・1963年	アンジェイ・ムク	アンナ・チュビエフスカ、アレクサンドラ・シュロンスカ
19日(土)	★怪談 (160分)	日・1964年	小林正樹	三国連太郎、仲代達矢、岸恵子、中村賀津夫、中村翫右衛門
21日(月)	赤い砂漠 (115分)	伊・1964年	M・アントニオニ	モニカ・ヴィッティ、リチャード・ハリス、カルロ・キオネッティ